

## 【あわてることはない】

1年生の学年だよりに、「着替えの際に、一人でボタンを外せなかったり、スモックをかけられなかったりした光景も、もはや過去のものです」という文章がありました。これは5月1日発行のたよりにあった文章ですから、もう一月も前のことになります。この文面から4月はじめの入学式直後の1年生の様子が目に浮かびます。保護者の方々はそのころどんなことを心配されていたのでしょうか。そして、その心配事は今でも続いているのでしょうか。着替えだけでなく、子どもたちは時間をかけて少しずついろいろなことができるようになっていきます。何かできないこと、遅いことがあっても「急ぎなさい、早くしなさい」とできるだけ言わずに我慢してじっと見守ることもときには必要です。自分でできるようになったことについては、子どもは自信を持つことができ、それがきっと次のことにつながります。

## 【優しさに多くの言葉はいらない】

そっと手をさしのべる。小学生でもそういう優しい行動ができます。先日階段を上がっていく怪我をした子が持っていた松葉杖をさりげなく持ってあげる一人の男の子の姿を見かけました。私が「大丈夫ですか？」という声かけに対して「大丈夫です」と答えた子でしたが、さりげなく手をさしのべた男の子には素直に「ありがとう」と言っていました。その子の役に立てなかった自分を恥ずかしく思いながら、その男の子の行動をうれしく思いました。このことを朝会でも取り上げました。自分の目の前で起きていることに対して、ごく自然に、あれこれ迷うことなくさっと手をさしのべることができるのは、それが一つの習慣とも言える段階にまでその子が成長しているということなのだと思います。今回のこともそうですが、子どもから教えられることがたくさんあります。

## 【こどもの笑顔】

子どもの一番素敵な表情はやはり笑顔でしょうか。今日の休み時間に、笑顔探しに校庭に出してみました。ここではたくさんの笑顔を見つけることができました。もちろん、遊びに夢中になっている真剣な顔もたくさんありましたが、それは笑顔の前の引き締まった表情であると感じました。ドッジボールをとるときの真剣な表情とその後でボール投げて満足したときの笑顔、鬼ごっこをして追いかけるときの真剣な表情と、友だちにタッチしたときの満足した笑顔。子どもの遊びの中では、真剣な表情と満足感による笑顔が交互に見られました。

さて、学校のあちこちで見られる子どもたちの笑顔ですが、実は保護者の皆さんにとっても、私たちにとっても、子ども一人ひとりの「今」を知る上で、とても大切なものではないでしょうか。その笑顔が見られると安心、もしそうでないときは心配、という一つの図式も考えられます。

子どもの表情から笑顔が少なくなったり、見られなくなったりしたら皆さんはどうされますか。先ほど子どもの「今」を知る上で大切なものであると書きましたが、まさに笑顔が少なくなった子どもの心には何か障害となるものができていると考えてよいのではないのでしょうか。可能であればその障害は子ども自身の力で取り除いていくことが望ましいのですが、そうしたくてもできないこともあるでしょう。そんなときは、友だち、家族、教員からの温かい支援が必要なこともあります。

子どもの小さな変化に気づくことが求められますが、何を基準にした小さな変化なのかは、その子を見る人間の力によって大きく変わります。私は子どもの笑顔が一つの大切な基準になるのではないかと思い、こういう気持ちでこれから皆さんと一緒に子どもたちと向き合っていきたいと考えています。

最後に忘れていけないことを一つ。子どもだけに笑顔を期待するだけではいけないのであり、まず私が笑顔でいることが大切です。同様に、保護者の皆さんの笑顔も子どもたちにとっては何よりうれしいものなのでしょう。

## 【農園風景】

今年度は農園活動をできるだけ前期に集中させ、子どもたちがより深く農園活動に関わることができるようにすることにしました。現在、2年生のトマト、きゅうり、3年生のかぼちゃ、枝豆、4年生はグループごとの様々な作物が育っています。3年生は5月の中旬に、はつか大根を収穫し家に持ち帰りました。7月の収穫祭で使うじゃが芋も順調に育っています。農園の作物は、その学年の子どもたちだけでなく、他の学年の子どもたちの観察の教材にもなります。じゃが芋の花、きゅうりの花を見つけ、意外な色、形に驚く子もいます。今年の農園はたくさんの作物に出会える場となっています。

また、5年生が毎年取り組むのが稲作りですが、Bグラウンドにある小さな水田に稲の花が咲く頃に子どもたちの目がそこに向くように声をかけたいと思っています。

自然の変化を子どもたち一人ひとりが自分の目と心で感じ取れる学校でありたいと考えています。